

はいせん こんらん
敗戦で世の中が混乱している中、ひとまず留萌に帰ろうと
うえのえき
思い、上野駅に行き、何とか次の日列車に乗ることができまし
た。2日目の朝、あおもりえき れんらくせん
た。2日目の朝、青森駅に着きましたが、連絡船(※28)もなく
他の北海道へ行く船も止められていました。それで、石炭おろ
しの仕事を手伝い、てつだ
なんとかポンポン船(※29)に乗せてもらい
はこだて
函館に着きました。

はこだて ふかがわ いっぱく
函館から汽車に乗り、深川で一泊し、次の日やっと留萌に
たどり着きました。家へ着くなりごはん
を食べて、そのまま死ん
だようにねむ つづ
だように眠り続けたといいます。

れんらくせん
※28 連絡船

の かいきょう れんらく
荷物を載せて、海峡などの間の交通を連絡する船。

※29 ポンポン船

すいじょうき あつりよく すいしんりよく え せんぱく
水蒸気の圧力で推進力を得る船舶のこと。

目が覚めると留萌の町には異様なにおいが漂っていました。
樺太(※30)からの引き揚げ船(※31)が国籍不明の潜水艦
から攻撃を受け、ばらばらになった遺体が浜に打ち寄せられ
た死臭だと言うことでした。

留萌に帰ってきたものの、敗戦により一晩で世の中の
価値観(※32)が変わってしまい、何もする気にならず無駄に時
が過ぎていきました。

そんな時、留萌で医院を経営する南出幸一さんから「この
町のために音楽をやらないか」と声をかけられます。

※30 樺太

オホーツク海の南西部にあるロシア連邦サハリン州の島。

※31 引き揚げ船

第二次世界大戦末期の1945年、樺太からの引揚者を主体とする日本の
緊急疎開船のこと。

※32 価値観

物事を評価する際に基準とする、何にどういう価値を認めるかという
判断。

ふくいん ぐんがくたいいん そかいしや きょうし
復員(※33)帰りの軍楽隊員や疎開者(※34)、中学校の教師な

みなみで がくだん
どが集まり、南出さんをリーダーに「楽団ロリックメロディ
けっせい まさる たんとう
ー」を結成し、勝はオルガンを担当しました。

そして、昭和21年(1946)2月「アーリースプリング・

めいろう げきじょう えんそうかい かいさい
ファーストコンサート」と銘打って留萌劇場で演奏会を開催

かんしゅう ちょうまんいん だいせいこう
すると、観衆(※35)が超満員になり大成功でした。

ふくいん
※33 復員

ぐんたい たいせい せんじ もど へい じょうたい ふくむたいき
軍隊の体制を「戦時」から「平時」に戻し、兵を動員状態から服務待機
もど
に戻すこと。

そかい
※34 疎開

くうしゅう かさい ひがい
空襲・火災などによる被害を少なくするため、都市などに集中している
じゅうみん たてもの ぶんさん
住民や建物を地方に分散すること。

かんしゅう
※35 観衆

こうぎょうもの もよおもの おおぜい
興行物や催し物などを見に集まった大勢の人々。

しかし、この成功せいこうでちょっといい気になっていたようです。

休憩きゅうけい 時間まじに街の兄ちゃんよに呼び出され、「態度たいどがでかかないか」と因縁いんねんをつけられ(※36)ました。

その時、7ヶ月程ほどもいい気になって無駄むだに時間すを過ごしていましたが、自分には音楽の世界があったことを思い出しました。それで、すぐに国立音楽学校くにたちに「休学届とどけ」を提出ていしゆつし、学校ふくがくに復学(※37)できるようにし、昭和 22 年(1947) 4月に国立音楽学校くにたちに復学ふくがくしました。

※36 因縁いんねんをつけられる

無理むに理由ひをこじつけて相手の非せを責めたてられること。

※37 復学ふくがく

停学ていがく・休学せいとしていた学生ふたた・生徒ふつきが再びもとの学校に復帰すること。